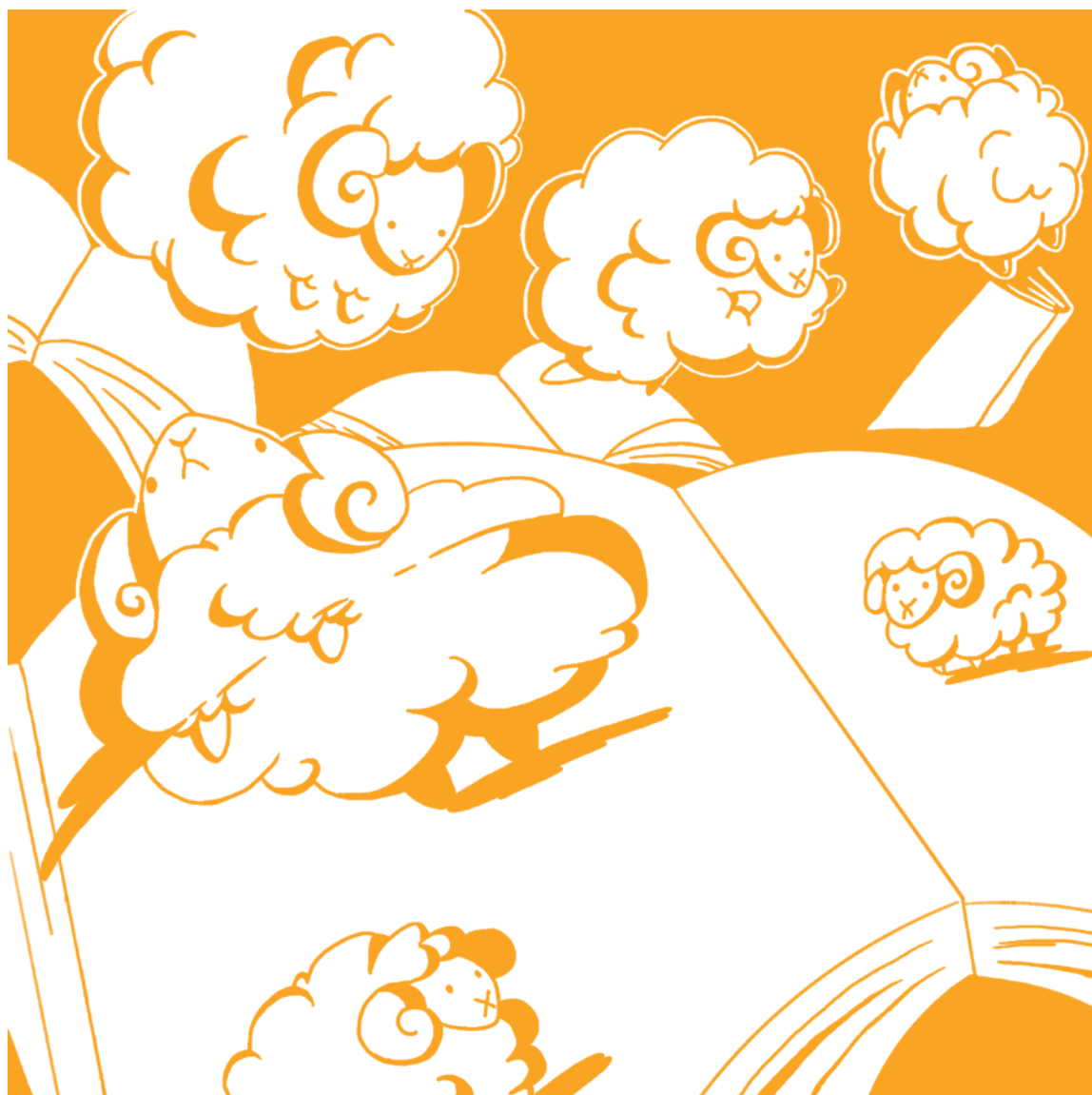


Parlando

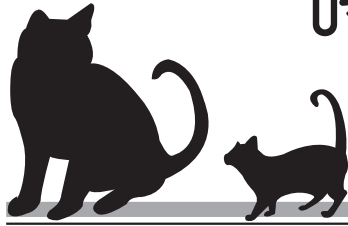
ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

289



Contents

- 時間～本と私～ …奈良希愛●1
- 《黒船来航 につぼん音楽革命》…
2015年度国立音楽大学音楽研究専修
(音楽学研究コース、音楽情報・社会コース) 専門ゼミⅠⅡ 研究発表会●2
- レインボウ 21 「明治を彩った西洋曲一唱歌となった曲、訳されたオペラー」を終えて…
マネジメントコース4年 渡邊萌子●4
- ビートルズが僕らの世代に教えてくれたこと～大切なのは「音楽を聴くこと」～ …小林篤茂●6
- 図書館員のノートから 参考図書のご紹介 ㉞
未知のサクソフォン作品を探すには ―レパートリー拡充のために― …樋口真規子●8
- In my Library こんなのみつけた ㉔ シベリウス&ニルセン生誕150年…三宅巖●9
- In my Library こんなのみつけた ㉓ 幻の男子部～宝塚BOYS～ …宮部真砂子●10
- 館長室へようこそ ㉑ アーユポーワン…古川聡●11
- 図書館のう・ご・き 耐震改修工事報告④ …●11
- Information…●12



時間 ～本と私～

奈良 希愛

小学生時代の愛読書の一つに「漢字成り立ち辞典」があった。学年ごとに習う漢字の成り立ちを説明するものだ。なぜかそれがとても面白く思え、小学一年生の一学期の合間に小学校で習う漢字の全六学年の辞典を、学校の図書館から繰り返し何度も借りた記憶が懐かしい。

その後「赤川次郎作品」にはまり、学校から借りては読んでいた私に対し、純文学を好む両親は「夏目漱石を読まないか？森鷗外なんてどうだい？」と色々紹介してくれたのだが、思ったより私が安部公房や遠藤周作の「沈黙」に興味を示しているのを見て、「あなたは面白いタイプね」と驚かれた。

音楽の世界を目指すようになってからは、しばらくあまり図書館に通わず、時間を見つけてはずつとピアノを弾いていた。大学時代は「楽譜を借りて」、「音源を聴きに」図書館に通っていたのだが、書籍は本屋さんで手取り早く、好きな文庫本を手に入れていた。

ただ、本当にピアノ一筋だったので、本を楽しむ余裕ができたのは、留学してからだった。母が三島由紀夫、太宰治の作品の本をダンボールで二箱、がぼつとSAL便で送ってくれたのだ。日本の自宅では、二十四時間ピアノを練習する環境だったのが、留学してからその環境はなくなり、またゆつくりと本を読むようになった。私自身、山崎豊子、曾根綾子、三浦綾子作品にも興味を持ち出し、今尚ベルリンの我が家の本棚は、その時代に集めた文庫本がぎっしり。

一日外国語を使った頭を、夜寝る前にゆつくりと「日本」に戻す楽しみに、本があった。

留学時代は、試験勉強、楽譜の研究のために図書館に一日居座ることも多かった。いつしか、私にとって、図

書館は「楽しみ」の場所から「研究」のそれへと姿を変えていったのだ。

今ではたくさんさんの日本人作家の作品が海外で翻訳され売られている。私自身も吉本ばなな作品、村上春樹作品、川端康成作品をドイツ語で購入した。さすがにしつかりとした翻訳が付いていて、ブレはないのだけど、それでもやはり私はできれば本は「原語で読みたいタイプ。言葉の綾が、なんとも言えぬ快感を私に呼び起こすからだ。言葉はやはり面白い。ただ印刷された文字のはずなのに、そこから著者の性格、感性がひしひしと伝わって来る。その感性の波が刺激的な作品を、私はその時そのときで、勝手に選ぶのだと思う。

昨今電子書籍も出てきて、世の中は便利になった。私自身常に電子辞書を持ち歩き、その便利さにお世話になっている一人だ。

ただ、電子書籍で私が反応する「脳」と、紙の書籍でのその場所が違うことも感じている。私にとっては、紙の書籍で感じる脳みその部分の方が、心に残ることが多いのだ。だから私は、やっぱり本を探しにいく。時代はどんなに変化していても、私にとって「読みたい本」は、手にとって重みを感じられるそれ、なのかもしれない。

私自身の生活も学生時代とは大きく変わり、電車の中では足りない睡眠を必死で取り戻し、なかなかゆつくりと本を読む時間がとれないのだが、海外にも拠点を持っているので、長時間飛行機に乗ることも多い。

その中では、必ず本を持ち込んで、静かに読むようになった。

その生活自体は慌ただしくあれど、本を読むというのんびりさが、私は好き。その贅沢な時間が、好きなのだ。

黒船来航 れぼりうしおん にっぽん音楽革命

2015年度国立音楽大学音楽研究専修
(音楽学研究コース、音楽情報・社会コース)
専門ゼミⅠ・Ⅱ 研究発表会

【序章】

今からおよそ150年前、浦賀沖にペリー艦隊が現れ日本の歴史は大きな転換期を迎えました。いわゆる文明開化です。明治時代に入り近代化を図った日本は、欧米と肩を並べる国家を目指し「国策」として西洋音楽を取り入れました。それは軍楽、儀式、外交、教育の場と多岐に渡り、やがて大衆の中に広がり、様々な形で開花していくのです。また、日本にはもともと雅楽や能、狂言などの伝統音楽があり、西洋音楽の流入は、日本人が自分たちの音楽を見つめ直すきっかけともなりました。

今回の研究は、明治以降、日本人がどのように西洋音楽を受容してきたのか、そこにはどのような創意工夫と経緯があったのか、和と洋の出会いからどんな音楽が生まれたのかをたどります。そしてそれらが培養土のようにはぐくんできた、まさに現在の「私たちの音楽」を再認識しようという試みです。皆さんも是非一緒に、この《黒船来航にっぽん音楽革命》をたどってみませんか？

【ペリー来航と横浜居留地】

1853年、ペリーは大統領領

親書を手渡すため、華々しい軍楽の響きとともに久里浜に上陸しました。それは当時の日本人が聴いたことのない西洋音楽で、大砲の音とともに人々の度肝を抜きました。翌年ペリーは横浜に上陸し、今度はポーハタン号に幕僚を招き、顔を墨で黒く塗ったミンストレルショーで彼らをもてなしました。「エチオピアン・コンサート」と名付けられたそのショーはフォスター作曲のアメリカ民謡などが歌われた陽気なショーで、緊迫感のあつた日米両陣営も大いに楽しんでたということです。

ペリーが持ち込んだのは、音楽とともに、その音楽を上手く利用した西洋文化でした。人々の統率、通信手段、戦意高揚として有効とされた西洋の軍楽は、幕末の幕府・各藩での太鼓、吹奏楽修練を経て明治の軍楽隊設立へとつながりました。またその流れは、一方では幕末鼓笛隊を生んだのです。

ペリー上陸後、横浜は外国の窓口として開港し、多くの外国人と外国の駐屯軍が居留しました。彼らは外国での生活をそのまま横浜に持ち込んだのです。外国人の邸宅では音楽会が開かれ、日曜日には音楽隊を先頭に街を練り歩く姿があり、「ドンタク」と呼ばれまし

た。また、山手公園には野外音楽堂が設立され、イギリス駐屯軍の軍楽隊演奏などが行われました。

【日本での鍵盤楽器づくり】

現在、楽器製作は日本の一大産業です。ではその原点はどこにあるのでしょうか。横浜などの外国人居留地にはたくさんの方の西洋の楽器が持ち込まれました。環境の違い日本では楽器の調律や修理がつきものです。そこで外国から調律師や楽器商人たちもやってきて、次第に日本で楽器の製造、販売が行われるようになりました。例えば横浜の中華街では、来日した華僑などによりピアノが作られました。また外国人から楽器づくりの技術を学んだ西川虎吉や松本新吉などが活躍した一方、山葉寅楠のように独自に鍵盤楽器づくりに取り組んだ日本人も多くいました。

リードオルガンはキリスト教会での讃美歌の伴奏に多く持ち込まれていて、またピアノよりも安価だったため、唱歌教育が義務づけられてからは少しずつ学校にも取り入れられていきました。娯楽のためのものも含め、鍵盤楽器にはこのような需要があり早くから各地で作られていったのです。



【儀式】

明治に入り、日本の伝統的なお祭りや儀式が次第に変容していきました。今回は香取神宮の式年神幸祭と、天長節について取り上げます。

約800年の歴史を誇る香取神宮の式年神幸祭は、応仁の乱の後一度廃れてしまったものの、明治維新と共に復興の聲が高まり、やがて12年に一度開催される特別なお祭りとなりました。元は20年に一度、新たな社殿を造設する際に行われたシンプルな祭事でしたが、現代では、西洋音楽伝習の先駆けとなった軍楽隊から発展した鼓笛隊の演奏も行われるようになっていきます。また、西洋の国王誕生日の祝典を模倣した政府の働きかけにより、明治になると天長節が国民的な祝祭となります。ここでは、

西洋音楽が流れる中で、西洋料理も振る舞われました。そして何よりも注目すべき所は、この儀式で西洋音楽を演奏していたのは伶人（雅楽家）であったということです。伶人たちによる日本音楽と西洋音楽の兼修。日本と西洋の融合がなされた瞬間でした。

【教育】

私たち日本人は教育を通して音楽を学んできました。現在、私たちの周りで音楽が盛んであることは、今まで行われてきた音楽教育が音楽を学ぶ上で大きな役割を果たしてきたことの証拠とも言えます。

今回、音楽教育では大きな二つの流れを追っていきます。一つは軍楽、居留地をきっかけにして流入した音楽が、一部の民衆に受け入れられ始めると同時に、明治政府が音楽（唱歌）を正式に義務教育に取り入れるために、音楽について調査研究を行う機関として音楽取調掛がつくられ、現在へと続いている流れです。二つ目は女子教育の一環としての音楽の流れについて見ていきます。疑問に思う人もいるかもしれませんが、諸外国の修道会が女子教育を推進したお

かげで、現在の女性の社会進出があると言っても過言ではないでしょう。そんな当時の女子教育の大きな柱の一つであった音楽教育を見ていきます。

【官の施策が生んだ音楽】

ここまでペリー来航から「国策」として取り入れられた西洋音楽がどのような形で日本人に広まっていたのかを、様々な面からたどっていきましたが、西洋音楽はどのように日本人に浸透していったのでしょうか。今回の研究では二つの視点に軸足を置き、浸透の仕方を見つめます。一つ目の視点は民衆の音楽です。民衆の音楽では、ペリー来航以前から存在した民衆の音楽が官の施策によってどのように変化したのかを、「どどいっ」「演歌」を例に見た後に、西洋音楽受容によって新たに生まれた民衆の音楽を見ていきます。

二つ目の視点は新日本音楽運動です。大正期から昭和初期にかけて、邦楽界全体が西洋化を志向していました。邦楽に洋楽の要素を取り組もうとする試みは明治期から行われていましたが、本格的な融合という点ではこの時期からと言えます。そして、宮城道雄を中

心に展開される新日本音楽運動が始まったのです。

宮城道雄の代表作に《春の海》があります。この作品は「日本の古き良き伝統音楽を受け継ぐ」と認識されていますが、実際には西洋音楽の要素が至るところに組み込まれています。普段、私たちが「伝統的」と思っているいくつかの作品には、西洋音楽の影響が強く残っているのです。同時に、この時期には三味線、琴、尺八の楽器改良が行われていました。当時は和声楽器に進んだ音楽という風潮があったため、邦楽器を西洋化する試みがなされていたのです。特に、尺八とフルートの融合楽器、オークラウロには魅力的な要素が多く含まれています。新日本音楽運動の章では、西洋の影響を受けた作品と楽器改良について考察していきます。

【実演について】

研究発表会当日は、前述した《春の海》（琴とヴァイオリン）とオークラウロの実演があります。《春の海》は本学学生による演奏、オークラウロは外部からの演奏者をお招きしています。ぜひ、この機会に和洋折衷の響きに触れてみませんか？

レインボウ21

「明治を彩った西洋曲

—唱歌となった曲、訳されたオペラ—」を終えて

マネージメントコース4年 渡邊萌子

レインボウ21ってなに？

正式名称は「レインボウ21 サントリーホール デビューコンサート」といいます。学生自らが公演プログラムを考え、大学を通してサントリーホールへ応募します。その後、ホールの方との面接を経て三つの企画が採用となります。採用されると、マネージメントする学生は出演者や、大学およびホールと連携し、チラシ・プログラムの制作、広報活動、演出の考案など、公演制作の現場を体験することができます。

発案のきっかけ

マネージメントコースでは、三年次後期の授業で、レインボウ21へ応募する企画を、コース生全員がそれぞれ考え、プレゼンし合うことから始まります。私は、日本と西洋の芸術が絡み合っているようなプログラムをやってみたくて考え、探していたところ、「明治期の唱歌を彩った西洋曲—唱歌も軍歌も讚美歌も—」という名のサイトを見つけました。まさに自分の考えていたものにぴったり！と確認したところ、二〇〇八年に国立音楽大学の図書館で行われていた展示であることが判明しました。自

分の思い描いていた内容にぴったりですし、展示をしていたということは資料、楽譜もそろっているはず、と飛びついたのが、きっかけでした。

楽譜の音、あつた。

この言葉は公演の一か月ほど前に、ご指導いただいた花岡先生からのお言葉です。プログラムを考える時から参考にしてきた音源には、解説や楽譜が備わっていて、なにも疑うことなく参考にしていました。もちろん楽譜に書かれていた音についても、こんな風に歌われていたのか、などと能天気な捉え、深く調査することなく、出演者に楽譜を配っていました。そして練習が始まり、なんとなく曲の雰囲気がかめてきて、さあこれからというときに、「この音、本当に合っているの？」と花岡先生がおっしゃっているとピアノストを通じて聞きました。そのときは、まさかそんなことがと思いました。が、調べてみると、いろいろなことが発覚しました。

今回取り上げた楽曲は、明治期の日本人が西洋の文化をなんとかして取り入れようと、西洋の名曲に日本語の歌詞をつけて「唱歌」として広められた曲です。企画展示

でも原譜として展示していましたが、それらすべてが最初の楽譜ではなく、後世の人が五線におこしたものがほとんどとなってしまいました。そんななか原典を展示することができたのは、〈唱歌萃錦 上〉におさめられている「婚礼」（東宮鉄真呂）の楽譜です。（図）この曲は、リヒャルト・ワーグナーのオペラ「ローエングリン」の中の有名な結婚行進曲が原曲となっております。調性、拍子は原曲通りですが、五線ではないためリズムは分かりにくく、強弱、伴奏についての記載は全くされていません。この楽譜だけを見た場合、当時のような伴奏がつけられていたのか、そもそも無伴奏だったのか、伴奏のことだけにしても、断定をすることはできませんでした。

悩んでいるうちにも本番の時間は迫ってきます。本番まで一か月をぎり、やつと練習も軌道にのって来たところで、今さら楽譜の差し替えなんてしてもいいのか、でも不確かなものを演奏していただくわけにはいかないと悩んだ末、合唱団には原譜と考えられる楽譜の音をパソコンで作成し音の取り直しをお願いする、ピアノストに弾いていただく伴奏は花岡先生にご指導いただきながら作り上げる、

ビートルズが僕らの世代に教えてくれたこと ～大切なのは「音楽を聴くこと」～

大学院音楽研究科音楽学専攻(楽器・音響) 1年 小林篤茂

二〇一五年四月、ポールマッカートニーの来日公演が行なわれることとなり、私は運良くアリーナの最前ブロックのチケットを手に入れることができた。会場内に入ると、年齢も世代も様々なファンで埋め尽くされていた。コンサートの終わりに帰路の最中、私と同年代であろう二〇代前半の二人の会話が耳に入ってきた。「やつぱりビートルズはいい曲ばっかりだよな!」「ビートルズの一員を生で聴けるなんて最高だったよ。」私も同意見である。ポールマッカートニーがメンバーの一員であったビートルズが誕生してから五〇年以上の年月が経っているが、その当時作られた音楽の魅力を様々な年齢、世代の人々と共有出来ることに喜びを感じた。世代を超えて愛されている音楽を作り歌っていた張本人を見ることが出来る機会など、滅多にあることではないのだから。自宅に帰り、コンサートの余韻に浸っていると、ふとした疑問を感じた。私は今日、ビートルズの音楽を生で体験することが出来たが、彼らをリアルタイムで

知っていた訳ではない。ビートルズが現役で活動していた当時、リアルタイムで彼らを見ていた世代の人々と、僕らのような世代とが持つている彼らに対する捉え方は異なるものではないだろうか。

僕らの世代(一九八七年から二〇〇四年生まれにかけての、いわゆる「ゆとり世代」や「さとり世代」)は、当たり前だがリアルタイムでビートルズを見たことはない。彼らを知るきっかけは、家族や親戚の影響、ラジオやテレビなどの

マスメディア、中学校や高校の英語の授業や音楽の授業で教材として扱われたことによるものなどが考えられる。彼らは既に歴史上の人物として扱われ教えられてきたのである。リアルタイムのビートルズを知っている世代(一九四七年から一九四九年生まれの団塊世代を中心とする人々。ビートルズ世代。以下リアルタイム世代と呼ぶ)は、マスメディアは勿論、様々な媒体から彼らに関するリアルタイムな情報を得ることができた。ここで既に大きな違いが生じてい

る。つまりそれは、僕らの世代の多くは、彼らの存在よりも先に、彼らの音楽を知るのである。「ビートルズは音楽家である」という情報の後に彼らの存在を認識することとなる。一方、リアルタイム世代の多くの人は、彼らの音楽を知る前に彼らの存在を知ってしまったはずである。その大きな要因として、一九六六年のビートルズの初来日が当時一つの社会現象として注目されたことにある。

音楽評論家の渋谷陽一は『ロックミュージック進化論』の中で、ビートルズについてこのように書いている。「議論の対象は髪の毛であり、ファッションであり、騒動でしかなく、彼等の音楽が真面目に語られた事など全くなかったと言ってもいい。」また、フリージャーナリストの矢崎泰久は『ビートルズの社会学』の中でこのようにも語っている。「青少年の健全な育成」を旗印にして全国的に盛り上がったエレキ追放運動により、地方都市では公共施設や学校などの会場閉め出しが続出し、

学校単位による生徒たちへのエレキ禁止令が出る始末だった。かくて、ビートルズの来日までが、完全に社会問題化したのである。」これらの記述からも分かるように、当時ビートルズの初来日は一つの社会現象として認識され、リアルタイム世代の多くの人々は、彼らの存在を音楽よりも先に知ってしまったのである。一部の音楽好きを除いた多くの人々が、彼らの音楽をろくに聴いたこともないくせに、見た目や言動などに論点を当てて批判していたことが先行してしまつたのである。そのため、彼らの音楽は議論の中心からほど遠かつたのである。

僕らの世代ではどうだろうか。学校教育の現場では、ビートルズが教材として扱われることが多い。特記すべきは、英語と音楽の授業である。私事であるが、昨年教育実習に行った際にビートルズを取り上げて授業を行なつたが、ほとんどの生徒はビートルズの楽曲を何かしら知っている。彼らに「なぜビートルズの音楽を知つ

ているのか」と問いかけたところ、多くの生徒が中学校の英語の授業や音楽の授業で聴いたことがあるから、と答えたのである。私も中学高校と英語の授業でビートルズを聴かされた記憶がある。音楽の授業で使用する教科書のほとんどにもビートルズの楽曲やその歴史が掲載されており、音楽史の一部として紹介している教科書もある。加えて、実習先の生徒に「ビートルズとはどんなバンドか知っているか」という質問も投げかけてみると、バンドメンバーの名前や楽曲名などは知っているが、ファッションや髪型についての発言をする生徒などは一人もいなかったのである。まして、日本においてビートルズが社会現象にまでなつていたなどということは誰も口にしなかつた。つまり僕らの世代は音楽好きの一部を除き、ビートルズという存在を知る以前に、彼らの音楽を聴いているため、はじめから彼らを音楽家として認識しているのである。このような相違点が僕らの世代とリアルタイム世代に存在するが、これについ

てどのように考えるべきなのか。

ビートルズが初来日した一九六六年当時、彼らの評価は酷評が著しく音楽についての議論が行なわれることは少なかつた。先に挙げたように、渋谷陽一は「彼等の音楽が真面目に語られた事など全くなかつたと言つてもいい。」と記述している。評価の内容は音楽ではなかつたのである。さらに「日本にはビートルズを聞きながら育つた世代などどこにも存在しない。ビートルズを聞いていたのは極く限られた少数の人間でしかなく、いわゆるヒット・チャートにおいても彼等は常に苦戦をしていた。」と同書籍で記述している。リアルタイムでビートルズを聴いていた世代を「ビートルズ世代」と呼ぶことがあるが、現在言われているようなビートルズ世代なるものは存在しないと云っているのだ。一方、僕らの世代は「ビートルズ＝音楽家」として認識している。このような傾向に至つたいきさつは、ビートルズの音楽が日本において次第に評価され、今日までに

伝えられたことが要因である。僕らの世代が偏見や先入観なしに純粹に音楽にスポットを当てて、彼らの音楽を聴くことが出来たのは大変喜ばしいことなのである。多種多様化する音楽の中から、自分が本当によいと感じた音楽を聴くことが出来る耳を僕らの世代はもっているはずだ。偏見や先入観、大衆やマスメディアに流されることなく、自分が最高だと感じた音楽を追求することこそ大切なのである。ビートルズは僕らの世代に、音楽聴取のあるべき姿を教えてくれたのかもしれない。



『ロックミュージック進化論』
渋谷陽一著 1990 新潮社
請求記号●C53-450



「承諾書番号A15-1399」
『ビートルズの社会学』
朝日新聞社編 1996
請求記号●C60-941

未知のサクソフォン作品を探すには —レパートリー拡充のために—

樋口真規子

Londeix guide to the saxophone repertoire
1844-2012 / Bruce Ronkin

Glenmoore, PA : Roncorp ; Glenmore [i.e. Glenmoore], PA : distributed, Northeastern Music Publications, c2012

請求記号 : X-076b/R

参考図書室のレファレンス・カウンターでは「こんな楽器の組合せの曲を探しているのだけど……」という質問を受けることがあります。そんな時は「件名」という検索項目を使うと良い、と回答するのですが、探せるのは当館所蔵資料に限られるので、必ずしも利用者の希望に応えられるわけではありません。今回は、サクソフォンの曲を探すのに利用していただきたい参考図書を紹介します。

編者ブルース・ロンキン (1957-) はアメリカのサクソフォン奏者、研究者。かつて1994年に、フランスのサクソフォン奏者ジャン・マリ・ロンデックス(1932-)とともに、12,000曲もの作品を列挙した“150 years of music for saxophone : bibliographical index of music and educational literature for the saxophone, 1844-1994” (Roncorp, c1994)を出版しました。本書は、その後2012年までの18年分を加えた収録数29,000曲にもなるサクソフォン・レパートリー・リストです。

本書は2種類の索引から構成されています。まず、作曲家名順(ABC順)に作品を列挙したリスト(全770ページの内468ページを占めます)。作曲家名順リストは、以下の記載事項から成ります。

作曲家名(生没年)

作品名(作曲年)(演奏時間)(献呈者/編曲者等)

演奏手段、出版社

この内、サクソフォンのオリジナル作品が掲載されている作曲家名は太字で示されています。また、主要作曲家には、フランス語、英語で経歴や特徴などコメントが付されています。出版社名は略語で記

されていますから、巻末の出版社名で正式名称を確認する必要があります。リストを眺めていると、出版社未記載の作品も多いのですが、かなりの数の作品に“•adr”と記されているの気がきます。これは、「作曲者に直接連絡するように」という印なので、巻末には、作曲家の連絡先一覧(その多くはEメール・アドレス)が付いています。

冒頭の質問の答を見つけるのに使っていただきたいのが、もう一つの索引「演奏手段別索引」です。こちらは「サクソフォンのみ、およびサクソフォンとピアノの組合せ」と「サクソフォンと他の楽器との組合せ」に分かれています。初めのグループの内、独奏曲とピアノ伴奏付きの曲はソプラニーノからコントラバス・サクソフォンまで17項目にも分かれ、サクソフォンのみの重奏曲は2重奏、3重奏から始まり22重奏およびサクソフォン・オーケストラまで、と細かに分類されています。もう一つのグループ「他の楽器との組合せ」は、弦楽器との、木管楽器との、金管楽器との、さらに打楽器や声や電子楽器との組合せ等々、31項目にも分類されています。「バス・サクソフォンの独奏曲」とか、「サクソフォンばかり15人で演奏できる曲」、「朗読やナレーションとサクソフォンの曲」など、OPACでは探しにくい曲も、容易く探すことができるでしょう。

バラバラと眺めているだけでも、未知の作曲家や作品に出会うことのできる参考図書です。スマホの画面から得られる情報だけでなく、足を踏み入れる機会が少ない参考図書室の資料から得た情報を活用していただければ幸いです。



シベリウス&ニルセン生誕150年

三宅 巖

今年2015年は北欧の作曲家二人の生誕150年に当たります。フィンランドの作曲家ジャン・シベリウスとデンマークの作曲家カール・ニルセンです。

今回紹介する本は彼ら二人を含めた北欧の作曲家の作品を紹介したもので、著者は本学非常勤講師の新田ユリ先生です。書名の「ボホヨラ」はフィンランドの言語のフィン語で「北国・北のほう」の意味だそうです。

新田先生は本学卒業後、桐朋学園大学ディプロマコースで指揮を学び、尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、小松一彦各氏に師事しました。1990年第40回ブザンソン国際青年指揮者コンクールファイナリスト。1991年東京国際音楽コンクール第9回(指揮)第2位。同年東京交響楽団を指揮してデビューしました。2000年より1年間文化庁芸術家在外研修員としてフィンランド・ラハティ交響楽団でオスモ・ヴァンスカ氏に師事しました。以後日本とフィンランドを拠点に北欧の楽団、音楽祭に客演を続けています。2015年1月より愛知室内オーケストラ常任指揮者に就任、2014年

11月より日本シベリウス協会会長に就任しました。

この本で紹介されている作品はシベリウスの交響曲全7曲・主な管弦楽曲9曲、ニルセンの交響曲3曲、フィンランドのウーノ・クラミ、エイナル・エルグルンド、エイノユハニ・ラウタヴァアラ、ペール・ヘンリック・ノルドグレン、デンマークのニルス・ゲーズ、以上5人の作曲家の管弦楽曲7曲、合計26曲で、すべて新田先生が演奏したことがある作品です。作曲家の紹介は最新の研究を反映した詳しいもので、作品の紹介も指揮者としての細かい視点が含まれており、他の作品解説に比べてもとても分かり易いと思います。

そしてこの本の巻末には北欧の作曲家200人のリストが掲載されています。内訳はフィンランド48人、ノルウェー38人、スウェーデン49人、デンマーク47人、アイスランド18人で、それぞれ作曲家の生年順に配列され、姓名(アルファベット表記も含む)、主要作品、解説、参考CDが掲載されています。一部の作曲家には新田先生のコメントも付いています。このような北欧の作曲家についての纏まったリ

ストが載っている刊行物は他にはあまりないと思います。リストに興味のある作曲家を見つけたら、参考CDを図書館のOPACやナクソス・ミュージック・ライブラリーで検索して聴いてみてはいかがでしょうか。

新田先生には今回紹介されなかったノルウェー、スウェーデン、アイスランドの作曲家についての次巻を是非書いて頂きたいと思っています。本書をきっかけに北欧の作曲家についての本の刊行が続くことを願っています。

◆◆◆◆◆
紹介する資料

◆◆◆◆◆
新田ユリ著『ボホヨラの調べ…指揮者がいざなう北欧音楽の森…シベリウス&ニルセン生誕150年』
(講求記号●J128409' 他)





幻の男子部 ～宝塚BOYS～

宮部 真砂子

♪今はもう秋々すみれの花の季節ではありませんが、「女の園」として有名な宝塚歌劇団に戦後の一時期だけ「男子部」が存在した、という事実をご存じてでしょうか？

◆創設者小林二三(いちぞう)の夢

宝塚少女歌劇(現宝塚歌劇団)は現在の阪急電鉄の前身、箕面有馬電軌の経営者(当時は専務)小林二三(1873～1957)が三越の少年音楽隊からヒントを得て発案し、大正2年に設立された。当時箕面有馬電軌は集客事業として宝塚新温泉をオープンし、そこでの集客イベント「婚礼博覧会」の余興として出発したのが宝塚少女歌劇であった。

小林は宝塚唱歌隊、宝塚少女歌劇養成会を経て創立された宝塚音楽歌劇学校(1918年)の初代校長にもなった。多忙を極める日常のなかで彼が刊行した著作の一つ、雑誌『歌劇』掲載『おもひつ記』の目次を見ると「男性加入」という単語が何度か登場する。小林はかねてから「歌舞伎とは違う新しい演劇を日本国民のための国民演劇としてつくらなければいけない」という使命感に燃えていた。「男女合同による本格的な国民劇」を意図していた彼にとって「男性を加入させる」という事は長年の構想でもあった。

◆男子部誕生、そして解散

本書冒頭に、後に第1期生メンバーとなる人物が1945(昭和20)年秋、一面識もない小林に宛てた手紙のエピソードが登場する。小林がこの手紙によって男性加入を思いついたとは考えにくいのが、男子部が生まれるきっかけを作った可能性はあるだろう。宝塚歌劇団男子部は創設者、小林の発案で1945年12月に一期生5人が入団して誕生した。

その後、54年に解散するまで計25人が在籍した。女子生徒達からは、冷ややかな視線を受けながらも「男生(だんせい)ちゃん」と呼ばれた。彼らは女性と同様に芸名を名乗り、声楽や日舞、バレエ、演劇の稽古に懸命に励んだ。しかし、与えられるのはいつも、客席から見えない舞台袖で歌う「陰コーラス」や、時には馬の脚に入ったたり、舞台装置の操作などの裏方ばかりであった。

また「タカラヅカは女の園」「宝塚の舞台に男は似合わない」という歌劇団内の異論、ファンの抗議も激しく、ついにメインステージである宝塚大劇場の舞台に俳優として一度も立つことなく、男子部は昭和54年3月に解散する。この顛末は本書に詳しい。

◆清く正しく美しく…

さて、男子部解散後の彼らはどうのような人生を送ったのだろうか。本書では本人や残された家族、当時の関係者たちの証言を取材している。彼らが選んだ職業は舞台俳優、会社員、ダンサー、教員、演奏家…と実に様々であった。元ツカガールを妻にした人もいた。また、家族以外には自らの過去を「黙して語らず」という人もいた。

昨年、創立百周年を迎え話題となった宝塚歌劇団。今や世界でも数少ない「女性だけのレビュー劇団」として日本だけでなく、世界に知られる存在に成長した。確かに「清く正しく美しく」という宝塚の伝統イメージには、男性は似合わなかったかもしれない。歌劇団を裏で支えた男子部が宝塚の正史に登場することは、これからもないだろう。しかし、宝塚歌劇団の栄光の歴史の陰に、見果てぬ夢の実現をひたすら追い求めた、こんな男たちがいた事を心にとどめておきたいと思うのである。

参考文献(図書)

- ◆『おもひつ記』小林二三 2008 阪急「ミュニケーションズ」請求記号●J13-666
- ◆『宝塚歌劇の変容と日本近代』渡辺裕 1999 新書館 請求記号●G4-259
- ◆『タカラヅカという夢』津金澤聡(廣)ほか 2014 青林社 請求記号●J126-827

館長室へようこそ⑱

アーユボーワン

図書館長 古川 聡

アーユボーワンとは、スリランカで用いられている挨拶の言葉で、初対面の挨拶でも日常的なあいさつでもいつでも使え、両手を合わせて祈るしぐさとともに言う。「長生きしてください」、「命を大事にしてください」という意味がある。音だけではなく意味も何と優しい言葉であろうか。そのスリランカに行ってきた。スリランカは、仏教が発展した国で多くの世界文化遺産がある。頂上にかつては王宮があった高さ二百メートルほどの岩山、シギリヤロックもある。頂上からは、ヤシの木やバナナの木に覆い尽くされた緑の大地が地平線まで広がっているのが見えた。

庶民の生活をガイドに尋ねると、小さな湖の岸辺で過ごすある農家に連れていってくれた。藁葺きの質素な屋根の下で家族四人が生活をしており、一緒にナンを焼き、手作りのカレーをごちそうになり、話をしてきた。水道も電気もなくランブだけ、トイレも湖で済ませる。野生の象に襲われないように夜は木の上に造った家で寝るなど、想像できない日常が広がっていた。だが、彼らの表情はみな優しく、たんなる旅行者である私たちを心から歓迎してくれた。スリランカと言うと、かつてのセイロンという国名からもわかるように、紅茶の国というイメージがある。だが、それ以上に私たち日本人にとっては重要な国といえる。戦後、サンフランシスコ講和会議において日本の分割統治が決まりかけた時、スリランカの大臣で後に大統領になったジャワワルダナ氏が反対し、「怒りは怒りによつてではなく慈悲の心でのみ消し去ることができる」、「自由にしてかつ独立した日本の復活を求めると欧米の大臣に向けて説いたのである。そして今の日本がある。これまでスリランカ人の日本への思いを知らなかったことを、私は今恥じている。スリランカのみなさん、改めて「アーユボーワン」。

図書館のう・ご・き..... 耐震改修工事報告④

◆冬休み明けに3階、4階がリニューアルオープン!

1～2階は2015年12月23日から約1年間立ち入り禁止に。

着々と耐震改修工事が進む4号館。いよいよ冬休み明けに3階と4階が先行オープンします。3階は参考図書を中心とした開架閲覧室、4階はAV視聴フロアです。一方、長年にわたり親しまれてきた現図書館(1～2階)は、12月23日から約1年間、工事のため立ち入り禁止となります。現1階は楽器学資料館に、2階は新しい図書館のメインフロアとして生まれ変わります。

◆これに伴い、3号館側階段が仮入口となります。メインカウンターも3階に。

詳細は図書館HPや掲示でご案内します!

この工事に伴い、図書館正面入口は閉鎖され、3号館側階段が仮の出入口となります。貸出・返却を行うメインカウンターも、3階に仮設置します。しばらくの間は、図書館スペースが狭くなりますが、明るくきれいになったスペースを楽しんでください。なお、書庫は工事をしませんので、1～2階の工事中も資料の貸出には影響ありません。ご安心を!

Information

冬休み貸出

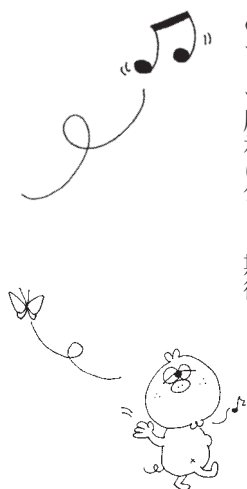
冬休み貸出が12月1日(火)から始まります。返却日は1月8日(金)以降になります。楽譜や本、CD(学内者のみ)を長く借りられますのでご利用ください。

「新潮文庫の100冊」2015を追加

今年の「新潮文庫の100冊」の中から、昨年度までに購入していないものを追加します。場所は自由閲覧室で、貸出期間は2週間です。ぜひご利用ください。

図書館テーマ展示はじげんお休みします。

現在の図書館メインフロアはリニューアルのため、2016年1月より一時閉鎖します。そのため、現在のブラウジングルームでのテーマ展示も12月いっぱいまで終了となります。リニューアル後、きれいな図書館でのテーマ展示に乞うご期待!



テーマ展示 in ブラウジングルーム

9月7日(月)～10月8日(木)

エリック・サティ 没後90年

企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会

音楽家でもあり、詩人でもあり、画家でもあったエリック・サティ。今回の展示では今年没後90年を迎えるエリック・サティの多彩な才能に光を当ててみました。

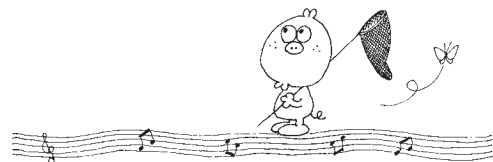
10月10日(土)～11月5日(木)

本物あります。～新1号館サインパネル貴重楽譜展～

企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会

新一号館は各フロアに貴重楽譜のレリーフがあります。実は、その本物を国立音大の図書館が所蔵しているのです!毎日何気なく眺めている皆さん、本物を見てみませんか?

*関連企画*博物館実習A・B履修3年生による
ファクシミリ展示@新一号館



11月10日(火)～12月4日(金)

黒船来航 につぼん音楽革命

2015年度国立音楽大学音楽研究専修

研究発表会資料展

企画●国立音楽大学音楽研究専修専門ゼミⅡ

西洋音楽がどのように受容されてきたかの軌跡を目で楽しめる展示になっています。どうぞ、足をお運びください!

10月～12月

<ミニ展示> 竹内文庫 錦絵展

企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会

竹内道敬文庫は、本学において近世邦楽の教育研究に貢献された、竹内道敬先生からの寄贈コレクションです。来年(2016年)の大学創立90周年を記念して、竹内道敬文庫の中から、錦絵を中心としたカラー版・パイリンガルの図録を作成します。図録の出版前に、ぜひ本物の錦絵を見てもらいたいという思いから、今回の展示を企画しました。10月から月ごとにテーマを変えて、錦絵を展示します。



Library Calendar

11

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

図書館は耐震改修工事に伴う引っ越し作業の為、
12月23日から立ち入り禁止となります。
1月の開閉館日程についてはホームページをご覧ください。
また工事に伴う突然の日程変更も考えられますので、ご利用前にご確認ください。

■Parlando・Meadow・289号・November 5, 2015・Meadow「語りながら生きる」について意味の楽想記号を■発行・国立音楽大学附属図書館■編集担当・河田篤子・相良陽介■

- ◆ ■ 閉館 学内者のみ利用可
- ◆ 無印：開館 月～金 8：50～19：00（書庫内資料の受付は18：00まで） ● A V資料室 8：50～18：50（受付は18：10まで）
- ◆ ◇印 月～金 8：50～17：00（書庫内資料の受付は16：50まで） ● A V資料室 8：50～16：50（受付は16：30まで）
- ◆ 土 8：50～17：00（書庫内資料の受付は12：30まで） ● A V資料室 8：50～12：50（受付は12：30まで）

※12月は耐震工事の為、日程の変更が考えられます。ご利用の前に必ずホームページや掲示でご確認ください。